



上川井だより

令和6年1月31日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

2月号

災害を 生き抜くための 訓練へ

副校長 荒海 透

大きな災害で始まった令和6年も早一か月が経ちました。「令和6年能登半島地震」で犠牲となられた方々にお悔やみ申し上げます。また、被災されました多くの皆様にお見舞い申し上げます。都岡中・若葉台中ブロック（都岡中、若葉台中、都岡小、川井小、若葉台小、上川井小）では、都岡中生徒会が中心となって合同で1月26日に街頭で募金活動を行いました。また、上川井小学校でも1月22日から25日まで募金活動を行いました。子どもたちなりに「自分たちができること」を考え、実際に行動に移すことができるのは素晴らしいことだと思います。子どもたちの気持ちが、被災地の復興に少しでも役立てられればうれしいです。

「東日本大震災は、今の子どもたちにとっては歴史上の出来事である。」という言葉をつい最近耳にしたことを覚えています。あれから13年経ったことを考えると小学生にとっては確かにそうかもしれません。一方で、保護者の皆様や私たち教職員にとっては、鮮明に思い起こすことができ、その頃の様子を語りだすと大変だった日々のことが次々とあふれ出てくるほどでしょう。親子間においても災害に対する意識の差が少しずつ表れ始めていたともいえます。

このような思いをめぐらしている中、新年早々大きな災害が起きてしまいました。被害の様子を画面越しで見ているだけでも、とても辛い思いになります。そして改めて日本が地震大国であることを思い知らされます。50年や100年に一度といわれるような大きな災害が10年に一度ぐらいのペースで起きているのではないかと感じることも、さらに不安を大きくします。

しかし、その一方でこれまで幾多の災害に見舞われてきた日本だからこそ、支援の輪が次々と広がっていく様子や行政等の力を借りずに自分たちの力で避難所を運営する人々など、たくましい自助・共助の姿がたくさん見られることも事実です。

これから長い人生を、災害と共に生き抜いていく子どもたちにとって必要な力とは何なのでしょうか。上川井小学校では、これまで地震、火災、暴風雨、土砂災害など様々な災害を想定して訓練を実施してきました。地域・学校防災の日には AED や消火器、煙体験などもしました。防災の意識を高めるための DVD も見ました。

しかし、元日より続く被災地の報道をみていると、何かが足りないように感じてきました。学校で行う訓練は、災害が発生した、まさにその時の対応を想定した訓練です。「災害発生前」－「災害発生時」－「災害発生後」という見方で考えると、災害発生前後という視点が弱かったと感じます。これからは、より現実的な災害を想定の下、少しでも被害が小さく済むことを目指す「減災」の視点を取り入れた災害発生前の学習や災害発生後、避難生活を送るようになった時に、小学生でもできることを自分で考えて行動に移すことができるように、訓練内容をブラッシュアップしていくことが必要です。災害は「いつでも、どこにでもやってくる。」から「すぐに、上川井にもやってくる。」という意識をもって、2024年を過ごしていきたいと思います。